



2019年4月4日

各 位

会 社 名 株式会社放電精密加工研究所  
代 表 者 名 代表取締役社長 工藤 紀雄  
(コード番号 6469)  
問合せ先責任者 常務取締役執行役員管理部長  
役職・氏名 大村 亮  
電 話 046-250-3951

### 「中期経営計画 2019」の策定に関するお知らせ

当社は、このたび2020年2月期(第59期)から2022年2月期(第61期)までの3か年を対象とする「中期経営計画 2019」を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 「中期経営計画 2018」のローリングについて

「中期経営計画 2018」では、すべてのステークホルダーの満足度の高い企業を目指していくことを長期ビジョンとして、「常に信頼と感動を与える企業へ」をスローガンに掲げ、2019年2月期では利益面での計画達成を実現することができました。一方で、当社を取り巻く国内外の市場環境は、相次ぐ自然災害や米中貿易摩擦などの影響により、依然として先行きが不透明な状況で推移しており、自動車業界における電動化をはじめとする先進技術の動向が引続き加速度的に変化・新化するなど、ビジネス環境も日進月歩の勢いで変化しております。2020年に創業60周年を迎える当社にとって、当期は、100年企業を目指すためには、着実に持続的成長を実現することが必要であることを改めて認識する一年となりました。

中期経営計画は向こう3か年の環境変化等の予測シナリオを前提として策定されますが、環境の変化に機敏に対応するべく、当社グループは毎年度のローリング(中期経営計画の再策定)方式を実施しております。この度、市場環境の変化と各種リスク要因を織り込んだ上で、当社らしさを体現するものづくりの原点に立ち返り、HSKブランドを確立することを目指して、中期経営計画のローリングを実施致します。

#### 2. 「中期経営計画 2019」の基本方針について

当社グループは、企業理念に基づいた行動の実践を基本とし、「中期経営計画2019」の3ヶ年(2020年2月期～2022年2月期)におけるスローガンを「常に信頼と感動を与える企業へ ～「個の力」から「組織の力」にすることで未来につなげる放電精密のものづくり」とし、HSKブランドの確立と発展に必要な組織基盤と実績作りの期間と位置付け、未来への布石として注力すべき事業分野に投資を集中し、持続的成長を可能とするための組織体制の変革などを通じて、社会に貢献し続ける「新しい放電精密加工研究所」となることを目指してまいります。

### 3. 中期計画 2019 の業績目標(連結)

単位:百万円

	2019年2月期 実績	2020年2月期 業績予想	2021年2月期 計画	2022年2月期 計画
売上高	11,686	12,080	12,756	13,520
営業利益	955	722	908	1,075
経常利益	1,030	709	927	1,101
当期純利益	709	415	637	771

#### 業績予想の背景

2020年2月期は、中国の景気減退、米中貿易摩擦や英国のEU離脱などが貿易環境に与える懸念を背景とした自動車関連市場への影響や、消費税増税による住宅関連事業への影響が想定されるものの、航空機エンジン部品事業での生産が順調に推移する見込みであること、遠心圧縮機関連部品の受注状況が良好であること、デジタルサーボプレスZENFormerの引き合いが増加して販売も順調に推移する見込みであることなどから、前期比で増収を予想しております。

一方、営業利益などにつきましては、前期比で減益を予想しております。その要因としては、自動車や住宅関連の市場環境の変化による受注への影響を見込んでいること、また、将来を見据えた新規事業として、デジタルサーボプレスZENFormerを用いた金属と樹脂・炭素繊維等によるマルチマテリアル材の成形技術のための開発投資やクロムフリー塗料ZECCOAT派生の機能性を持った新しい塗料の将来の事業の立上げなどに経営資源の投入を見込んでいることなどからであります。

また、2021年2月期以降につきましては、引き続き自動車関連や住宅関連の市場環境を取り巻く不確実性をリスクとして勘案しておりますが、航空機エンジン部品事業の更なる拡大、デジタルサーボプレスZENFormerの需要拡大などを見込んでいるため、それぞれ前期比増収増益で推移するものと予想しております。

なお、この「中期経営計画2019」は、本資料策定時点において入手可能な情報に基づいて策定したものです。実際の業績などは、今後さまざまな要因によって記載内容と異なる可能性があり、急激なビジネス環境の変化、予測シナリオの見直しの必要性が認識される場合には、期中においてもローリングの実施を検討することといたします。

以 上